

## 小児肺炎球菌感染症予防接種の説明書

肺炎球菌感染症とは	肺炎球菌は、子どもの多くが鼻の奥に保菌していて、ときに細菌性髄膜炎、菌血症、肺炎、副鼻腔炎、中耳炎といった病気を引き起こします。肺炎球菌による細菌性髄膜炎は、ヒブ（インフルエンザb型）による髄膜炎より発症頻度は低いですが、重症化します。
接種対象年齢 接種回数・間隔  ⑨接種開始年齢により接種回数異なります。	<p>◆生後2か月以上7か月未満で開始（※標準的な接種開始期間） （初回接種）12か月未満の間に27日以上の間隔で3回。 ただし、2回目および3回目が2歳を超えた場合は接種しない。 2回目が1歳を超えた場合は、3回目の接種は行わない。 （追加接種）初回接種終了後、60日以上の間隔をおいて、かつ生後12か月以上に1回。</p> <p>◆生後7か月以上12か月未満で開始 （初回接種）生後12か月未満の間に27日以上の間隔で2回。 ただし、2回目が2歳を超えた場合は、接種しない。 （追加接種）初回接種終了後、60日以上の間隔をおいて、かつ生後12か月以上に1回。</p> <p>◆1歳以上2歳未満で開始 60日以上の間隔をおいて2回。</p> <p>◆2歳以上5歳未満で開始 1回</p>
ワクチンの副反応	<p>○注射部位の症状（赤み、硬結、腫れ、痛みなど）、発熱（37.5℃以上）などがみられます。</p> <p>○極めてまれに、ショック、アナフィラキシー、けいれんなどが報告されています。</p> <p>-----</p> <p>予防接種を受けたあと、副反応が起こった場合は医師の診察・治療を必ず受けてください。</p>
受けることができない人	<p>○明らかに発熱のある人（37.5℃以上の場合）</p> <p>○重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人</p> <p>○その日受ける予防接種に含まれる成分でアナフィラキシーを起こしたことがある人</p> <p>○医師が不相当と判断した人</p>
予防接種を受けるに際し、医師とよく相談しなければならない人	<p>○心臓病、肝臓病、腎臓病、血液の病気などの治療を受けている人</p> <p>○以前に予防接種を受けたとき、2日以内に発熱、発しん、じんましんなどアレルギーを思わす異常がみられた人</p> <p>○今までにけいれんを起こしたことがある人</p> <p>○過去に免疫不全の診断がなされた人及び近親者に先天性免疫不全症の人がいる人</p> <p>○予防接種に含まれる成分にアレルギーがある人</p> <p>○発育で経過観察といわれている人</p>
ワクチン接種後の注意	<p>○接種後30分間は、ショックやアナフィラキシーがおこる可能性がありますので、医師とすぐ連絡がとれるようにしておきましょう。</p> <p>○接種後に高熱やけいれんなどの異常が出現した場合は、速やかに医師の診察を受けてください。</p> <p>○接種後当日は過度な運動を控え、1週間は体調の変化に注意しましょう。</p> <p>○接種部位は清潔に保ちましょう。接種当日の入浴は問題ありませんが、接種部位を強くこすることはやめましょう。</p> <p>○接種後、腫れが目立つときや機嫌が悪くなったときなどは医師にご相談ください。</p> <p>○このワクチンとほかのワクチンの同時接種を希望する場合は、医師にご相談ください。</p>